



MMWIN[®] みんなのみやぎネット[®]

より効率的で、質の高い医療・介護サービス提供のために
Vol. 114

IT-BCP対策におけるMMWINの活用

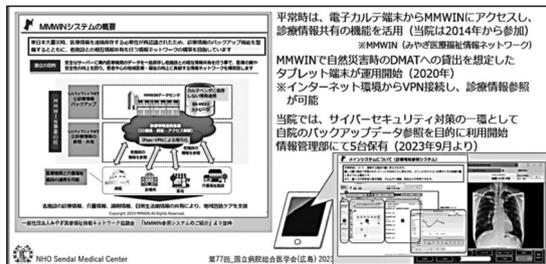
MMWINの各種サービスについて、施設におけるBCP対策の1つとしてこれまでもご紹介しておりましたが、今回は、実際にIT-BCPとしてMMWINを活用されています、仙台医療センター情報管理室 大沢 昌二様にお話を伺いました。

徳島や大阪の事案のように、昨今、医療機関に対するサイバー攻撃の被害が発生しています。2023年3月には医療法施行規則の改正により、医療機関の管理者に対してサイバーセキュリティの確保が義務付けられました。「医療情報システムの安全管理に関するガイドライン」も第6版に改訂され、各医療機関においても自然災害の事業継続計画（BCP）だけでなく、サイバー攻撃も含めたITシステムに関するBCP（IT-BCP）も求められるようになり、各医療機関においても検討されていることと思います。IT-BCPでは、「平時の予防対策」と「初動対応」、「復旧対応」に分けて考えられます。日々高度化、巧妙化するサイバー攻撃に対して、完璧な予防対策はありません。発生した直後の初動対応と、復旧までの対応方針が予め計画されていることで、被害の影響を抑えることにつながります。今回は、MMWINのタブレット端末を利用することで、サイバー攻撃により、病院の電子カルテ等の診療系ネットワークが長期間利用できなくなった場合でも、速やかに診療情報を参照できる環境が用意できるのではないかと考え、当院のIT-BCPの1つに取り入れたのでご紹介いたします。



仙台医療センター
情報管理室 大沢 昌二様

自然災害の場合、物理的にサーバーが故障しない限りは患者情報の検索が可能です。しかしサイバー攻撃の場合は、ランサムウェアのデータベースロックや、警察等の介入による証拠保全など、サーバーへのアクセスが制限されることが考えられます。オフラインバックアップからの復元を検討しても、機器の準備に時間がかかります。つまり、患者情報の参照ができない時間が長期間発生する可能性が高いということになります。大きな費用をかけずに、かつ、有事の際に速やかに過去の診療情報の参照ができる仕組みがないかを検討したとき、MMWINを思いつきました。当院は、MMWIN事業の柱でもある診療情報のバックアップに参加しています。データはSS-MIX2形式なので、院内のシステムの完全なバックアップではありませんが、標準的な形式でアップロードされています。せっかくバックアップしているデータがあるのだから、BCPとして活用できないかを事務局に相談したところ、2020年からDMATへの貸出を想定したMMWINタブレット端末の運用を開始していることを知りました。インターネットの環境があればVPN接続でMMWINの参照が可能です。端末の月額使用料はかかりますが、独自に設備投資をするよりはリーズナブルであると考え、院内で検討し、IT-BCPとして5台貸出をしようこととしました。



平常時は、電子カルテ端末からMMWINにアクセスし、診療情報共有の機能を活用（当院は2014年から参加）
※MMWIN（みやぎ医療福祉情報ネットワーク）
MMWINで自然災害時のDMATへの貸出を想定したタブレット端末が運用開始（2020年）
※インターネット環境からVPN接続し、診療情報参照が可能

当院では、サイバーセキュリティ対策の一環として自院のバックアップデータ参照を目的に利用開始
情報管理部にて5台保有（2023年9月より）

MMWINでは不足している情報は、別途定期的に電子カルテから抽出し、オフラインで保管をすることにしました。タブレット端末は、MMWIN側に既に環境があるため、貸出もすぐに対応して頂きました。有事の際に5台では足りないことが考えられます。発生しないことに越したことはありませんが、もしもの時は、事務局にご相談させていただくかと思っておりますのでよろしくお願いいたします。

お問合せ先：

一般社団法人みやぎ医療福祉情報ネットワーク協議会

Miyagi Medical and Welfare Information Network (MMWIN)

【住所】仙台市青葉区一番町1-15-19 【WEB】<http://www.mmwin.or.jp>

【TEL】022-395-6312 【FAX】022-395-6313 【E-mail】office@mmwin.or.jp

『MMWIN』、『みんなのみやぎネット』は、一般社団法人みやぎ医療福祉情報ネットワーク協議会の登録商標です。

